

平成 25 年度「東北大学学校ボランティア」活動報告

島軒 藍¹・澁谷拓巳¹・飛田 航²・横尾美帆³

¹ 東北大学教育学部

² 東北大学大学院医工学研究科

³ 東北大学文学部

本報告は、2003（平成 15）年度より活動を続けている「東北大学学校ボランティア」事業（以下、学校ボランティア）の 2013（平成 25）年度の取り組みを報告するものである。

1. 「学校ボランティア」概要

（1）実施体制

「学校ボランティア」は、東北大学大学院教育学研究科・教育ネットワークセンターの事業の一環として、同研究科の後藤武俊准教授を顧問とした事務局を設置し、運営を行っている。事務局員は学生で構成されており、現在の局員数は 5 名である。また、本年度からは川内南キャンパスの文科系総合研究棟 6 階にある教育ネットワークセンターに学校ボランティアの窓口を設け、ここで窓口業務等のサポートを受けながら活動を行った。

「学校ボランティア」の活動先は、仙台市内の小・中学校であり、仙台市教育委員会（以下、仙台市教委）の「学生サポートスタッフ事業」に対して学生のボランティア派遣を依頼した学校が主である。仙台市教委経由の依頼の場合、仙台市教委の学生サポートスタッフ事業のスタッフとして正式登録され、ボランティア保険や交通費の補助を受けることが可能であり、年度末には仙台市教委より「感謝状」の授与が行われることになっている。

（2）活動内容

活動内容は学習指導補助、配慮を要する児童・生徒の指導補助、休み時間の話し相手、または課外活動の補助など、多岐に渡る。

（3）活動学生の募集及び派遣方法

事務局では、東北大学の全学生を対象として、3 種類の活動募集を行っている。

①教育ネットワークセンター前掲示板

②川内北キャンパス・マルチメディア教育研究棟 1 階 SLA サポート室前掲示板

③メーリングリスト

これらを通じて、仙台市教委から受けた活動依頼情報を学生に発信し、興味を持った学生がいた場合、その学生に事務局の支援体制やボランティア保険、交通費支給等の活動に関する事前説明を行った上で、学生を派遣するというのが基本的な流れである。なお、メーリン

グリストの登録学生の内訳を、表1に示す。

表1. 学校ボランティアメーリングリスト登録学生学部構成表

学部	人数(人)	大学院	人数(人)
文学部	11	教育学研究科	5
教育学部	19	工学研究科	1
経済学部	5	医学研究科	1
医学部	1	理学研究科	5
理学部	7	農学研究科	2
農学部	5	その他	3
学部合計	48	大学院合計	17

(2014年2月現在)

2. 平成25年度「学校ボランティア」活動状況

(1) 年間の動き

本年度の「学校ボランティア」の1年間の動きを、表2に示した。

まず、大学の授業期間の開始時期である4月と10月に、活動希望学生から「学校ボランティア」に初めて興味を持った学生まで幅広く対象にした説明会を1度ずつ開催し、積極的に「学校ボランティア」の周知および活動者の募集を図った。

仙台市教委からの活動依頼については、一年を通して小学校64件、中学校26件で合計90件の依頼があった。その中でも、依頼件数が多かったのは4月から6月の年度初めであり、学生が活動を始める時期も年度の前半が多かった。

表2. 平成24年度の「学校ボランティア」の動き

月	行事・活動等	依頼		活動開始 学生(人)
		小	中	
4	ポスター掲示による活動学生募集 学校ボランティア・事務局説明会 1回目(4/25)	25	6	2
5	—	15	7	6
6	—	12	3	2
7	授業内周知による活動学生募集(教育学部専門科目)	4	0	1
8	—	2	5	2
9	—	3	1	5
10	授業内周知による活動学生募集(全学教育教職科目) 学校ボランティア・事務局説明会 2回目(10/28)	0	2	0
11	—	2	1	1
12	—	1	1	2
1	—	0	0	0
2	活動報告会・感謝状授与式(2/3 10:30~12:00)	0	0	0
3	—	0	0	0

(※ 依頼件数については、同一学校からの依頼であっても内容が違うものは別件扱い)

(2) 活動学校状況

仙台市教委からの 90 件（昨年度比+20 件）の活動依頼のうち、本年度は、17 件（昨年度比+4 件）の活動にボランティア活動学生を派遣した（達成率 19%、昨年度比±0%）。活動学生の人数は実働 18 名（昨年度比-2 名）、延べ 21 人（昨年度比-2 人）である。昨年度と比較して、本年度は実働人数が減っているものの、派遣した件数は増える結果となった。

ここで、活動学生の派遣先学校と人数の詳細を表 3 に示す。また、年度別の小学校・中学校への派遣数を図 1 および図 2 に示す。図 1 より、本年度「学校ボランティア」から学生が派遣された学校は 16 校であり、その内訳は、小学校 10 校、中学校 6 校であった。また図 2 より、活動学生の人数の内訳は、小学校 12 人、中学校 9 人であった。派遣先の学校や活動学生数ともに、小学校への派遣が多く、その傾向は昨年度よりも顕著に現れる結果となった。

表 3. 活動学校一覧と活動者数

活動学校	人数(延べ)
六郷小学校	1
国見小学校	1
通町小学校	1
片平丁小学校	1
太白小学校	1
田子小学校	1
八幡小学校	1
根白石小学校	1
連坊小路小学校	1
立町小学校	3
富沢中学校	2
青陵中等教育学校	1
南中山中学校	1
西多賀中学校	1
松陵中学校	1
八乙女中学校	3
合計	21

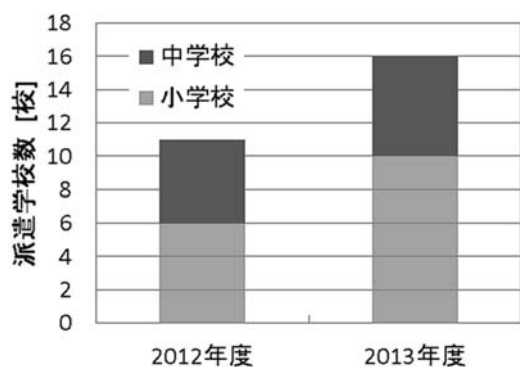


図 1. 派遣学校数の推移

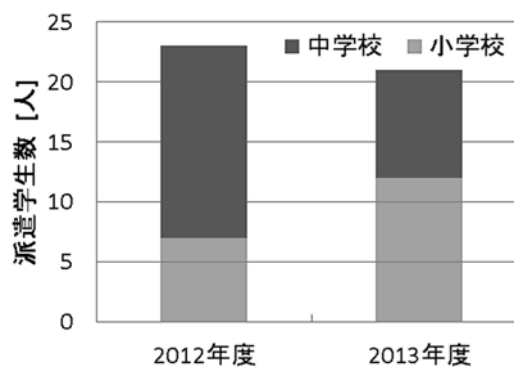


図 2. 派遣学生数の推移

(3) 活動者状況

①活動者の属性

活動学生の属性について、その内訳を表 4、表 5 に示す。昨年度と同様の特徴として、教育学部・研究生の活動数が多いことが挙げられる。一方、昨年度から変化した特徴として、

①理系学部の学生よりも文系学部の学生のほうが多いこと、②学年は、履修授業の多い1・2年生と3年生以上との人数の偏りが小さく、1年生が最も多くなったことが挙げられる。昨年度は理系学部の学生が多かった他、4年生以上が全体の85%を占めていたが、本年度は文系学部の学生や低学年の学生の活動が目立った。

文系と理系学部の割合はおおよそ同程度であることから、学校現場でのボランティア活動に興味を抱く学生は文理を問わないことが示唆される。また、低学年のうちから子どもたちと触れ合うことで、たくさんの考える機会と出会うことができ、その経験は後の教育実習をはじめとした様々な活動にフィードバックされて生かすことができる。従って、低学年の学生の活動が増えた本年度の傾向は望ましいものであると考える。

表4. 活動学生人数・所属別

学部 (大学院含む)	人数	昨年度比
文学	3	+1
教育学	7	+1
経済学	1	+1
理学	1	-5
工学	4	±0
農学	1	-1
医工学	1	+1
合計	18	-2

表5. 活動学生人数・学年別

学年	人数	昨年度比
学部1年	6	+5
学部2年	1	±0
学部3年	4	+3
学部4年	3	-4
大学院	4	-6
合計	18	-2

②活動学生によるボランティア活動報告

ボランティア活動を行った学生は、活動終了後に事務局へ「活動報告書」を提出する。活動報告書は、あらかじめ事務局が作成した質問事項に学生が文書にて回答する形式である。活動報告書の質問事項は次のとおりである。

【活動内容】	活動内容（頻度・対象・行ったこと）はどのようなものでしたか？
【感想】	活動をしてみたの感想をお聞かせください。
【困った点】	活動をしている中で、困った点などはありましたか？（子供に対して、学校に対して、事務局に対してなど）
【要望】	事務局に今後行って欲しいことなどがありましたら、ご意見をお聞かせください。

ここでは、この報告書に記載された学生の声を一部紹介する。

以下、活動内容、意見・感想部分の文章は原文の通りである。なお、学校名が記載されている場合には伏せ字を使用した。

K さん（工学部・1 年）	
【活動時期】	2013 年 9 月 26 日
【活動内容】	T 小学校の年 1 回の野外活動（泉ヶ岳登山）に参加した。
【感想】	子供達と交流しながら山に登れたことで達成感を味わうことができた。とても楽しかった。
【困った点】	泉ヶ岳までのバス代が片道約 700 円と高額になってしまったこと。（自己負担）
【要望】	特にない。
【事務局より補足】通常、仙台市教委から支給された交通カードを活動学生に貸し出すことで交通費補助をしているが、本件ではそれができず、学生に交通費を自己負担させてしまった。その背景として、本活動学生は学校との間で直接参加が決定したが、事務局がそれを把握したのが活動日直前であったために、本来活動前に行うべき事前説明を行うことができなかったことがある。活動日までにゆとりをもって手続きを行うために、学生および派遣先学校に、事務局の存在や活動手続きの必要性の周知を徹底すること、また、時間が限られる中でも事前説明を行う工夫を考えることで、今後このようなことが起こらないよう努めたい。	

S さん（工学部・1 年）	
【活動時期】	2013 年 9 月 26 日
【活動内容】	T 小学校の生徒さんが泉ヶ岳に登山するという事で担任の先生の補佐という形で引率をお手伝いさせて頂きました。
【感想】	引率する私たちが疲れてしまうくらい意外と登山は大変でしたがパワフルな子供達と一緒に楽しく登山ができました。しかし岩とかを登る際は子供達が怪我をしないか細心の注意をはらいました。
【困った点】	担任の先生より我々大学生の方が年齢も近く親しみやすいせいかたくさん頼ってくれたり甘えてきたりしてくれるのですが、どの程度まで手を貸してあげてどの程度まで自分自身でやらせることを促すかを少し悩みました。
【要望】	特にありません。

N さん（教育学部・1 年）	
【活動時期】	2013 年 6 月～
【活動内容】	1 泊 2 日の野外活動に同行した。事前に 1 度だけ職員の打ち合わせに参加した。主な活動は、バスの乗り降りの際の点検、特別支援学級の子供たちのお世話、野外炊飯の補助など。
【感想】	仕事をいちいち明確に指示されるわけではないので、自らやれることを探して積極的に働きかけていくのが大変だった。しかし最終的に特別支援学級の子供たちと仲良くなれたときは本当に嬉しかった。
【困った点】	ボランティアに応募してからいつごろ連絡がくるのか分からず少し戸惑った。
【要望】	特にありません
【事務局より補足】応募後の連絡については、事務局の対応の遅れによって、当活動学生を戸惑わせてしまったと思われる。今後は、事務局内で迅速に対応するために期限を決め、それを事前に活動希望学生にお知らせすることで、不安要素を取り除けるよう改善したい。	

Mさん（教育学研究科・博士課程1年）	
【活動時期】	2013年4月～
【活動内容】	おおよそ週に1度1日ずつ、小学校で、通常級に在籍する「気になる子ども」およびクラスの児童のサポート。1年間3年生の特定のクラスに入り、授業中の声かけや、個別指導、喧嘩の仲裁など様々なことを行いました。
【感想】	例えば喧嘩など対人面のトラブルを自分たちで解決できるようになったり、授業中に児童だけで注意しあって静かできるようになる、気に入らないことがあるとトラブルを起こしてしまいがちだった子が、我慢強く人と付き合えるようになる、といった子どもの成長と、先生の日頃の指導の関連を直に見ることができた、というのが本当に大きな事でした。
【困った点】	困ったことはないです。自分の体力がもうちょっとあったらよかったな、というくらいです。
【要望】	学生が学校ボランティアの運営を中心になって行っているのは東北大だけだと、先日の報告会で初めて知りました。とてもすごいことだと思います。大変なことも多いかと思いますが、これからも頑張ってください。
【事務局より補足】授業補助のみならず、けんかの仲裁まで行ったということで、塾講師等では経験できないような「生徒の心の成長」というものを肌で感じたようである。このような経験をえられるのが、学校ボランティアの魅力であると我々は信じている。	

Sさん（工学研究科・修士課程1年）	
【活動時期】	2013年5月～
【活動内容】	隔週の土曜にT中学校へ行き、中学生の学習支援のために机間指導をおこないました。
【感想】	研究の方が忙しく、あまり参加できなかったのが残念ですが、参加した際にはしばらく見ないうちに生徒たちがとても成長しているのを感じ、毎回新鮮な気持ちで臨むことができました。
【困った点】	今年度から事務局が位置が変わったため、訪れるのが不便になったことです。
【要望】	特にありません。本年度もお世話になりありがとうございました。
【事務局より補足】本年度から事務局窓口が川内北キャンパスマルチメディア棟1階のSLAサポート室から、川内南キャンパス教育学部棟6階の教育ネットワークセンターに移転した。それにより、交通費の受け取りなどで頻繁に事務局を訪れる学生には、アクセスの不便を感じさせてしまった。事務局の移転については、SLAサポート室でも依頼案件を閲覧できるようにした広報の工夫が、窓口移転による影響を小さく留める対応にもなっている。	

Sさん（理学部・4年）	
【活動時期】	2013年10月～
【活動内容】	頻度・・・週2回（10月～3月） 時間・・・午前8時～午後4時 対象・・・N中学校全学年 行ったこと・・・数学の授業における指導補助。清掃指導、給食指導の補助。特別支援学級における指導補助。
【感想】	非常に有意義な活動だった。子どもたちとぶつかることもあったが、月日を経るにつれて、子どもたちと信頼関係ができていくのを感じた。3週間の教育実習では見られないような子どもたちの変容を見られたし、3週間の教育実習では抱けないような愛情を子どもたちに抱くことができた。再来月から、教

	員になるにあたり、子どもたちを長期的な視点で見ること、心にゆとりをもって育てることの大切さを学んだ。また、先生方は、とてもあたたかく迎えて下さり、非常に活動しやすい環境で活動することができた。
【困った点】	子どもたちが、望ましくない行動をした際に、「週 2 回しか来ない人が注意をしても伝わらない。まずは、相手を理解してから。」という思いと、「先生と呼ばれる立場で、この行動を注意しなかったら、許可証を与えることになる」という思いの葛藤が、毎回のようであったこと。ただ、このように悩むことも教師としての成長（もしかすると、人間としての成長）だと思ふ。したがって、問題点ということではないです。
【要望】	特にありません。忙しい中事務局を運営してくださる方々のおかげで、ボランティアに取り組んでいます。ありがとうございます。交通費の支給も大変助かります。
【事務局より補足】	ボランティア学生立場で子どもに注意することは、とても難しいことであろう。しかしこの学生は、そのような経験を糧に教員へのステップアップを図ろうとしている。教員に近い立場で活動ができるのは、学校ボランティアの醍醐味だと思われる。

O さん（教育学部・2 年）	
【活動時期】	2013 年 6 月～
【活動内容】	週に一度午前中の活動で、毎回違う学年を担当させていただきました。主に授業中つまづいている子のサポートと休み時間の遊び相手をしました。
【感想】	想像よりも小学生は元気いっぱい人懐っこかったです。また算数の授業のサポートはやりがいがあります。
【困った点】	落ち着きのない子への対応の仕方はいつも試行錯誤ですが、それ以外に困ったことは特にありません。学校の方はいつも私の都合を優先してボランティアをさせていただき、感謝で一杯です。
【要望】	特にないです。

S さん（文学部・3 年）	
【活動時期】	2013 年 5 月～
【活動内容】	前期（5~9 月）はだいたい週 1 日、後期（10~現在）はだいたい月 1~2 日の頻度で、主に午後の約 2~3 時間、通町小学校の特別支援学級で、配慮を必要とする児童の学習、遊び、給食、掃除、帰りの準備などをサポートしました。
【感想】	はじめは子どもたちをどうサポートすればよいかわからず少し戸惑うこともありましたが、活動を重ねていくにつれて子どもたちとの徐々に信頼を築くことができ、だんだんと勉強やおしゃべりを楽しめるようになっていきました。活動中、担任の先生方が適宜アドバイスをくださったり、教室の和やかな雰囲気を作る工夫をしてくださったりしたことが大変心強かったです。また、授業だけでなく、ときには委員会活動やクラブ活動、学芸会など、小学校全体の活動に関わることができたこともよかったです。
【困った点】	特にありませんでした。
【要望】	さまざまな学部やキャンパスで活動依頼などの情報をチェックできるようにするとさらにいいと思います！学校ボランティアについてあまりよく知らない人が活動に興味を持つきっかけになるかもしれないので。
【事務局より補足】	事務局が課題と感じていることの一つに、学校ボランティアの認知度の低さが挙げられる。今後は、川内以外のキャンパスでのポスター掲示や、ソーシャルネットワークなどの活用を検討している。今回、認知度の低さが事務局以外の学生も感じている問題点であることが再確認された。この点については、今後強く推し進めていく予定である。

(4) 平成25年度「学校ボランティア」活動報告会・感謝状授与式

①活動報告会概要

「学校ボランティア」では毎年、年度末に活動報告会(感謝状授与式)を開催し、一年間の活動の総括の報告と、仙台市教委から活動学生への感謝状授与の場を設けている。活動報告会は、活動学生・仙台市教委・事務局関係者の三者が集まる場であるため、活動学生同士の交流、三者の意見や情報の交換を行うことで、「学校ボランティア」をより充実した活動にすることを目標としている。

学生の参加者については、本年度の活動学生に参加を募った他、活動経験のない学生にも活動の様子を知ってもらうため、メーリングリスト登録者への告知を行ったり、一般の学生に「学校ボランティア」を知ってもらう機会にもなるよう、参加を呼びかけるポスターを川内北キャンパスに掲示したりした。

本年度は下記の通り活動報告会を実施した。

【開催日時】 2014年2月3日 10:30~11:30
【参加者】 学生3名、仙台市教委2名、教育ネットワークセンター3名、SLAサポート室2名、事務局関係者6名、計16名
【場所】 東北大学川内南キャンパス・文科系総合研究棟202教室
【次第】 ①事務局報告
②活動者代表報告
③感謝状授与(仙台市教委より)
④事務局顧問挨拶
⑤懇談会

②参加者の感想

参加してくれた学生からの感想を以下に掲載する。

- 他のボランティアの方々の意見を聞くことができ参考になる部分が多かった。夏にこうした定例会を催したということをお知らせしたが、知らなかった。もっと、MTGの機会があるとよいかもしれない。
- 他の活動者さんの話を聞ける機会はなかなかないので非常に良い機会でした。スタッフの方々のお話も聞くことができ、来年度以降の活動がよりものになることを願います。

③事務局の反省—成果と課題—

毎年、活動学生の参加者が少ないことが活動報告会の課題となっており、本年度も学生の参加が3名と少なかった。その一方で、少人数での開催であることを活かして、懇談会では活動学生と事務局員でボランティアについてじっくりと話すことができたのは大きな収穫であった。また、普段文面でのやりとりが中心である仙台市教委の先生方から、直接ボランティアに関するお話を伺うことができたことは、事務局員や活動学生にとって貴重な経験とな

った。それと同時に、仙台市教委の先生方に事務局報告や活動学生の感想を直に届けることができ、「学校ボランティア」の実情を知っていただけたことも、本報告会の成果である。

事務局としては、本年度の活動報告会を、一般学生に「学校ボランティア」を知ってもらうための説明会を兼ねた形で企画し、川内北キャンパスでのポスター掲示による周知を行った。しかし、前述のとおり、本年度も参加者を増やすことはできなかった。この点については、今後インターネットを活用するなどの広報活動の充実により改善していくとともに、報告会の開催時期や頻度、内容の工夫を検討することで、活動学生にとっても新規の学生にとっても魅力的な会を企画していきたい。

3. 平成 25 年度「事務局」活動状況と課題

(1) 活動状況

事務局の基本業務は主に、①広報・活動者募集活動、②活動学生向け活動（各種手続きを含む）である。

①について、本年度は、前期に教育学部専門科目（2年生対象）の授業で1回、後期に全学教育教職科目（主に1年生対象）の授業で1回、計2つの授業で広報活動を行わせていただいた。また、ポスター掲示も積極的に行った。具体的には、教育ネットワークセンターを通じて、教育学部新入生への「学校ボランティア」チラシ配布を行い、教育学部棟の1階および6階に常時ポスターを掲示した。また、全学部生を対象とした広報のために、川内北キャンパス SLA サポート室の協力を得て、同室前へのポスター掲示と活動内容の詳細が書かれたファイルの設置をさせていただいた。

②の活動学生向けの活動が、事務局の中核業務である。学生からの活動希望を受けると、まず、仙台市教委による研修会をもとに、事務局員が活動希望学生に対して、活動までの手順や活動に際しての注意事項、保険や交通費に関する説明会を行う。次に派遣先となる学校側にボランティア内容の詳細を確認したり、学生のニーズを踏まえた調整を行ったりする。活動が始まって以降も、活動が長期にわたる学生には、メール連絡やヒアリングを実施している。また、前述した活動報告会の実施も、学生の活動を充実させるための一活動である。

(2) 本年度の課題と来年度に向けて

①ボランティア活動学生に対して

例年、活動に際しての事前説明を行って以降、事務局と活動学生が顔を合わせる機会がない場合も多く、その学生がどのような活動をしているのか、困ったことはないかなど、本来事務局が把握しサポートすべき点を把握できていないことが課題となっていた。従って本年度は年度途中に、事務局から長期の活動をしている学生に対して、上記のような質問をメールにて問い合わせることを試みた。しかし、返信のあった学生は少数であり、事務局が学生の活動の様子を把握するという成果は挙げられなかった。年度末の活動報告からは、活動中

に重大な困難を感じていた学生はいないと思われたが、事務局による活動学生へのサポートを充実させていくためにも、活動学生と事務局とのやり取りの課題は今後も改善に努めていくべきである。

②ボランティアを希望する学生に対して

本年度の活動募集の取り組みは、上述のとおり、教育学部専門科目および全学教育教職科目での授業内周知と、教育学部内におけるチラシ配布やポスター掲示が中心であった。教育学部生や教職科目履修生は、教育現場に対してある程度の興味を有していると考えられ、まずはそのような学生に「学校ボランティア」の存在を知ってもらうことには意義があると考えられる。また、教育学部内だけでは他学部生への周知に限界があるが、その点については、川内北キャンパス SLA サポート室前のポスター掲示に一定の効果があったのではないだろうか。SLA サポート室のあるマルチメディア棟 1 階は、様々な学部や学年の人が集まるスペースであるため、「学校ボランティア」のポスターも多くの学生の目に留まると思われる。

しかし、活動学生の増加を目標とした場合、未だその成果を挙げられていないのが現状である。本年度の広報活動の対象の中心であった学部 1・2 年生は履修授業が多いことから、ボランティアの都合がつきにくいという難しさがある。一方で、本年度の活動学生の傾向から、1 年生の活動学生のうち多くが単発の活動（宿泊研修や登山の補助など）を行っていた。通年の日常的な活動には大学の授業の都合により参加が難しいような場合も、特定の日にち・時間が空いていれば参加しやすいというのが、単発の活動の魅力であると思われる。従って、履修授業の多い学部生に対しては、単発の活動について重点的に募集することで、より多くの学生の活動参加を期待できると考えられる。

また、大学院生や教育学部以外の高学年の学生に対する周知活動も重要であるが、現状では不十分である。本年度から教育学部生以外の学生が事務局に入局し、事務局員の幅が広がったことから、来年度は他キャンパスでのポスター掲示を積極的に行いたいと考えている。

「学校ボランティア」を全学的に広報する上で重要となるホームページについては、教育ネットワークセンターのサポートにより、学校ボランティアの概要や窓口に関する情報、説明会実施のお知らせ等を掲載している。上記のような必要情報を正確に提供している一方で、より多くの学生に興味を持ってもらい「学校ボランティア」の認知度を向上させるに十分なホームページの活用には至っていない。来年度は、多くの学生に興味を持ってもらえるような情報を検討し、募集内容など具体的な情報についてはプライバシーの問題も吟味しながら、充実した情報を掲載できるようなホームページ運営を模索していきたい。